製品名: ALK（リン酸化 Tyr1078）ウサギポリクローナル抗体
カタログ番号: APRab04223
研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20℃で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000
分子量	150-240kDa

抗原情報

遺伝子名	ALK
別名	ALK tyrosine kinase receptor (EC 2.7.10.1) (Anaplastic lymphoma kinase) (CD antigen CD246)
遺伝子 ID	238.0
SwissProt ID	Q9UM73
免疫原	ヒト ALK（Tyr1078）周囲の合成リン酸化ペプチド

背景

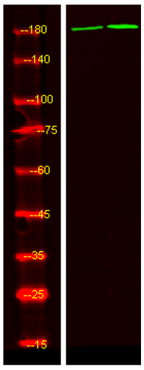
この遺伝子は、インスリン受容体スーパーファミリーに属する受容体チロシンキナーゼをコードしています。このタンパク質は、細胞外ドメイン、1 回膜貫通領域に相当する疎水性領域、および細胞内キナーゼドメインで構成されています。脳の発達に重要な役割を

果たし、神経系の特定のニューロンに作用を及ぼします。この遺伝子は、未分化大細胞リンパ腫、神経芽腫、非小細胞肺がんなど、一連の腫瘍において再構成、変異、または増幅が認められています。この遺伝子における最も一般的な遺伝子変異は染色体再編成であり、腫瘍形成において複数の融合遺伝子の生成につながる。これには、ALK（染色体 2）/EML4（染色体 2）、ALK/RANBP2（染色体 2）、ALK/ATIC（染色体 2）、ALK/TFG（染色体 3）、ALK/NPM1（染色体 5）、ALK/SQSTM1（染色体触媒活性：ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。,疾患：ALK に関連する染色体異常は、未分化大細胞リンパ腫（ALCL）と関連している。転座 t（2;17）（p23;q25）と ALO17。,疾患：ALK に関連する染色体異常は、炎症性筋線維芽細胞性腫瘍（IMT）。CARS との転座 t(2;11)(p23;p15)；SEC31A との転座 t(2;4)(p23;q21)。,疾患：非ホジキンリンパ腫の一種において、ALK に関連する染色体異常が認められる。NPM1 との転座 t(2;5)(p23;q35)。結果として生じるキメラ NPM1-ALK タンパク質はホモ二量体化し、キナーゼは恒常的に活性化される。恒常的に活性化した融合タンパク質は、非ホジキンリンパ腫の 5～10%の原因である。,機能：チロシンタンパク質キナーゼ活性を持つオーファン受容体。神経系の正常な発達と機能に重要な役割を果たすと考えられる。Y-x-x-x-Y-Y 配列の最初のチロシンをほぼ独占的にリン酸化します。モチーフ。,PTM：N-グリコシル化。,類似性：タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。チロシンキナーゼファミリー。インスリン受容体サブファミリー。,類似性：LDL 受容体クラス A ドメインを 1 つ含む。,類似性：タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。,類似性：MAM ドメインを 2 つ含む。,サブユニット：ホモ二量体。リガンドに結合すると、ホモ二量体となる。,組織特異性：脳と中枢神経系で発現する。小腸と精巣でも発現するが、正常リンパ球細胞では発現しない。,

研究分野

タグとセルマーカー

画像データ



LPS 処理または未処理の Hela 細胞を、一次抗体を 1:1000 希釈でウェスタンブロット分析した。二次抗体は 1:10000 希釈で行った。